

開催挨拶/Opening Remarks

武内和彦上級副学長（国際連合大学）

代読：永田明シニア・プログラム・コーディネーター（国際連合大学サステイナビリティ
高等研究所）

国連大学は、日本に本部を置くグローバルなシンクタンク、大学院の教育機関であり、人類の生存、開発、福祉など、国連とその加盟国が関心を寄せる緊急性の高い地球規模課題の解決に取り組むため、共同研究や教育を通じて寄与することを使命としている。この使命を果たすため、国連大学は国連加盟国の世界を先導する大学や研究機関と連携をとることで、国際的な学術機関ならびに国連システム組織との架け橋としての役割を担っている。

この公開セミナーは、持続可能な森林経営の概念をあらためて REDD プラスの文脈から捉え直し、各国の取り組みから学ぶとともに、REDD プラスの今後の進むべき方向性や政策的・技術的な課題の解決策について幅広い視点から意見交換されるものである。これは、国連大学の使命と目的でもある、開発途上地域をはじめとする地球規模の諸課題の解決につながるものであり、研究開発を通じた持続可能な森林経営の発展への大きな貢献になるものと考えている。

国連大学においても、2010 年 12 月から 3 カ年にわたり、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN¹）との協力の下、特にラオスとタイに注目し、REDDプラスの社会、経済、環境面での潜在的な課題と機会を評価する「森林地域におけるREDD+プロジェクト」を行っており、昨年 10 月には日本の林野庁の方も招聘してワークショップを開催した。今後ともこの分野における日本や各国、国際機関との連携・協力を進めていきたい。

今後は先進国と開発途上国の間の協力を一層強化し、持続可能な森林経営などを通じた地球環境問題の解決に取り組んでいく必要がある。今回のセミナーを契機に、国内外の研究者の連携の下に REDD プラスを活用した持続可能な森林経営が一層進展し、環境問題をはじめとする地球規模の諸課題の解決に貢献することを祈念している。

¹ Asia-Pacific Network for Global Change Research: <http://www.apn-gcr.org/>